

## 岩手山の火山活動解説資料（令和8年5月）

仙台管区气象台  
地域火山監視・警報センター

2026年5月下旬から山体膨張を示すと考えられる地殻変動が観測され、黒倉山付近等、西岩手山の想定火口付近で火山性地震が増加しています。

引き続き、西岩手山（大地獄谷・黒倉山から姥倉山）の想定火口から概ね2kmの範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があります。

西岩手山の想定火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

また、噴火時には火口の風下側では火山灰や小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

令和6年10月2日に火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）を発表しました。その後警報事項に変更はありません。

## ○ 活動概況

## ・ 地震や微動の発生状況（図1-②③、図2～3）

火山性地震は2025年8月中旬以降、少ない状態で経過していましたが、5月27日以降、黒倉山付近等、西岩手山の想定火口付近を震源とする火山性地震が増加しています。

山頂やや深部の低周波地震<sup>1)</sup>は、2024年12月中旬頃から発生頻度がやや高い状態で経過しています。

今期間、火山性微動は観測されませんでした。

- 1) 東岩手山では、山頂のやや深部（深さ6～9km付近）において、低周波地震の活動が認められます。この低周波地震の活動は、火山活動が静穏な状況下でもみられ、連続して発生することもあるため、噴火警戒レベルの判定基準に含めないこととしています。

## ・ 噴気など表面現象の状況（図1-①、図4～6）

黒倉山監視カメラによる観測では、21日に大地獄谷で100m程度の高さの噴気を観測しました。それ以外の期間は、概ね50m以下で経過しました。また、2023年及び2024年と比較して2025年4月以降、非地熱域より温度が高い領域が増加しています。

柏台監視カメラ及び長山篠川原監視カメラによる観測では、黒倉山山頂、岩手山山頂及び大地獄谷の噴気は認められませんでした。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページで閲覧することができます。

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)

次回の火山活動解説資料（令和8年6月分）は令和8年7月8日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所及び国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています。

**・地殻変動の状況（図7～10、図12）**

東岩手山のやや深部の開口割れ目の膨張及び山体西側のやや深部の膨張を示す地殻変動は、2026年4月初め頃から概ね停滞していましたが、5月24日頃から山体膨張を示すと考えられる地殻変動が再び観測されています。

JAXAの衛星「だいち2号」及び「だいち4号」の観測データを用いた国土地理院による干渉SAR解析<sup>2)</sup>結果によると、2024年以降、大地獄谷周辺及び岩手山西部周辺で衛星に近づく変動が見られていましたが、北行右観測の解析結果では2025年4月以降、南行右観測の解析結果では2025年10月以降、ノイズレベルを超える変動は見られません。

- 2) SARとはSynthetic Aperture Radar（合成開口レーダー）の略称であり、人工衛星や航空機などに搭載されたアンテナから電波を地表に向けて照射し、地表からの反射波を捉えることで、地形の形状及び性質を画像化することができます。干渉SAR解析とは同じ場所を計測した時期の異なる2回のSARデータの差をとる（電波を干渉させる）ことにより、地表の変動を詳細に捉える手法のことです。InSAR（Interferometric SAR）ともいいます。干渉SAR解析ではアンテナー地表間の距離変化量が観測地域で面的に得られます。

**○活動評価**

火山性地震は、2025年8月中旬以降少ない状態で経過していましたが、2026年5月下旬から西岩手山の想定火口付近を震源とする地震が増加しています。また、2024年2月以降観測されていた東岩手山のやや深部の開口割れ目の膨張や山体西側の膨張を示す地殻変動は、2026年4月初め頃から概ね停滞していましたが、5月下旬から山体膨張を示すと考えられる地殻変動が再び観測されています。これらのことから、西岩手山では火山活動が再び活発化していると考えられます。

引き続き、西岩手山（大地獄谷・黒倉山から姥倉山）の想定火口から概ね2kmの範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があり、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒する必要があります。

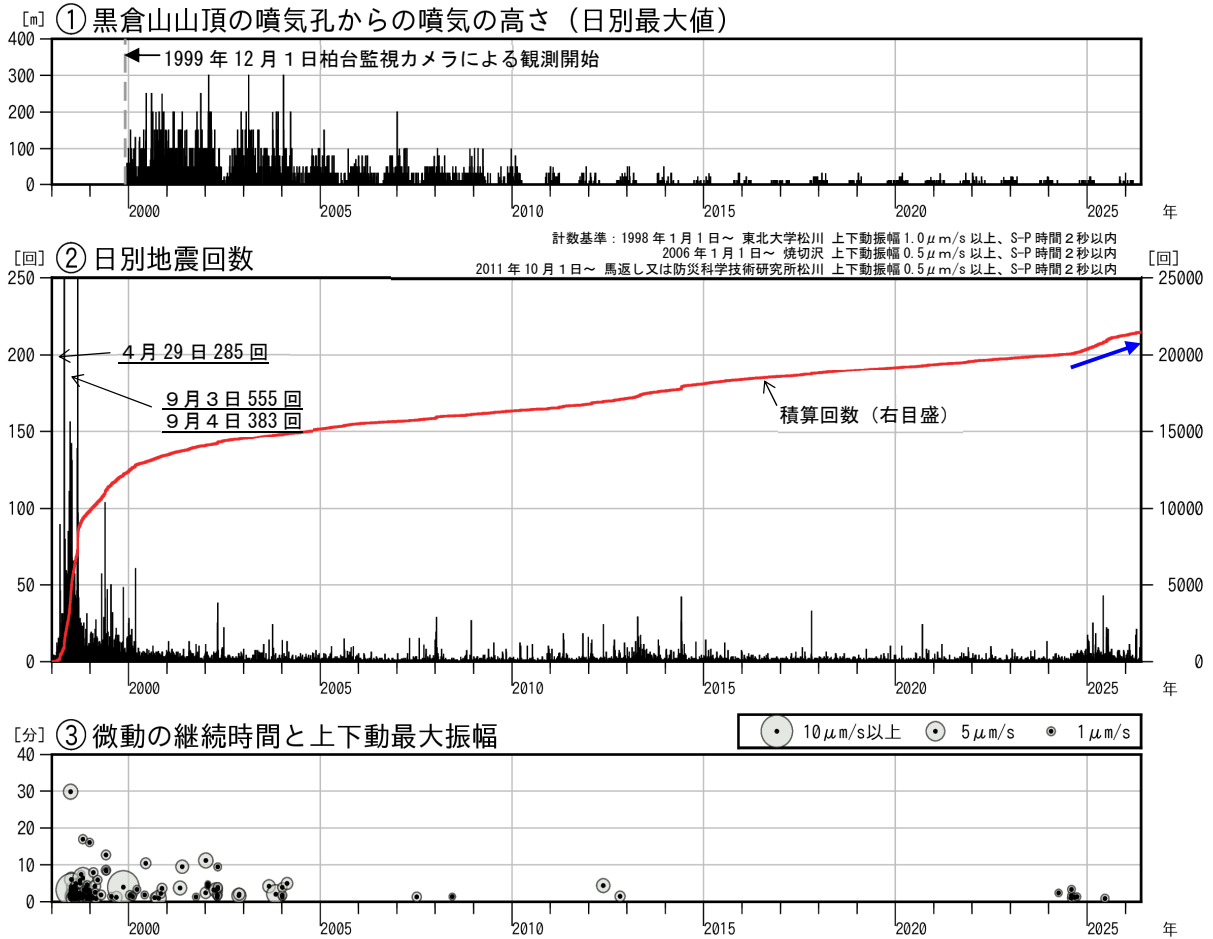


図1 岩手山 火山活動経過図（1998年1月～2026年5月）

②2000年1月以降は滝ノ上付近の地震など山体以外の地震を除外した回数です。  
 （1998年から1999年までは滝ノ上付近の地震など山体以外の地震を含みます）

今期間、黒倉山山頂の噴気は認められませんでした（①）。  
 火山性地震は2024年7月頃からやや多い状態で推移しています（②青矢印）。  
 今期間、火山性微動は観測されませんでした（③）。

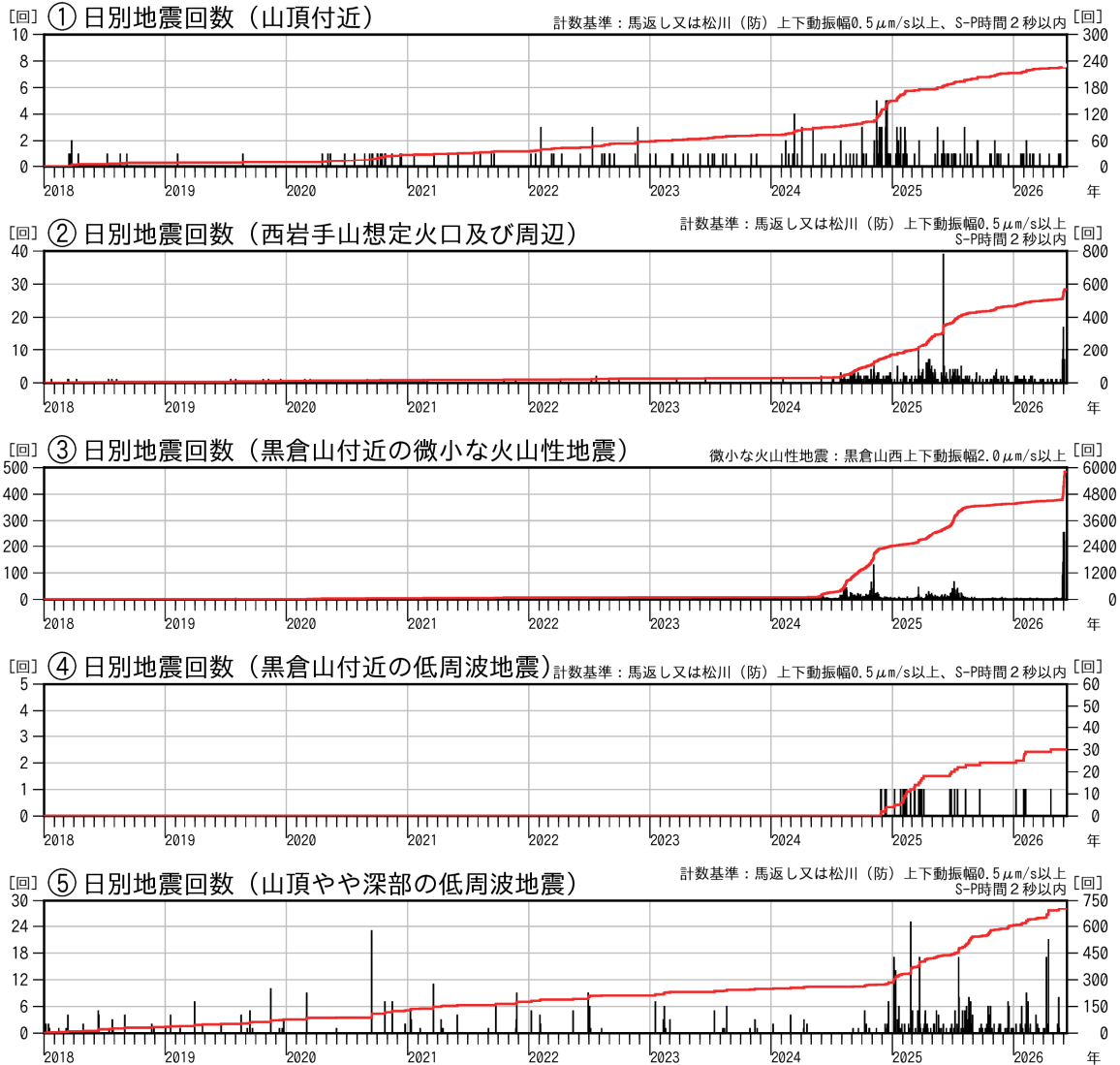
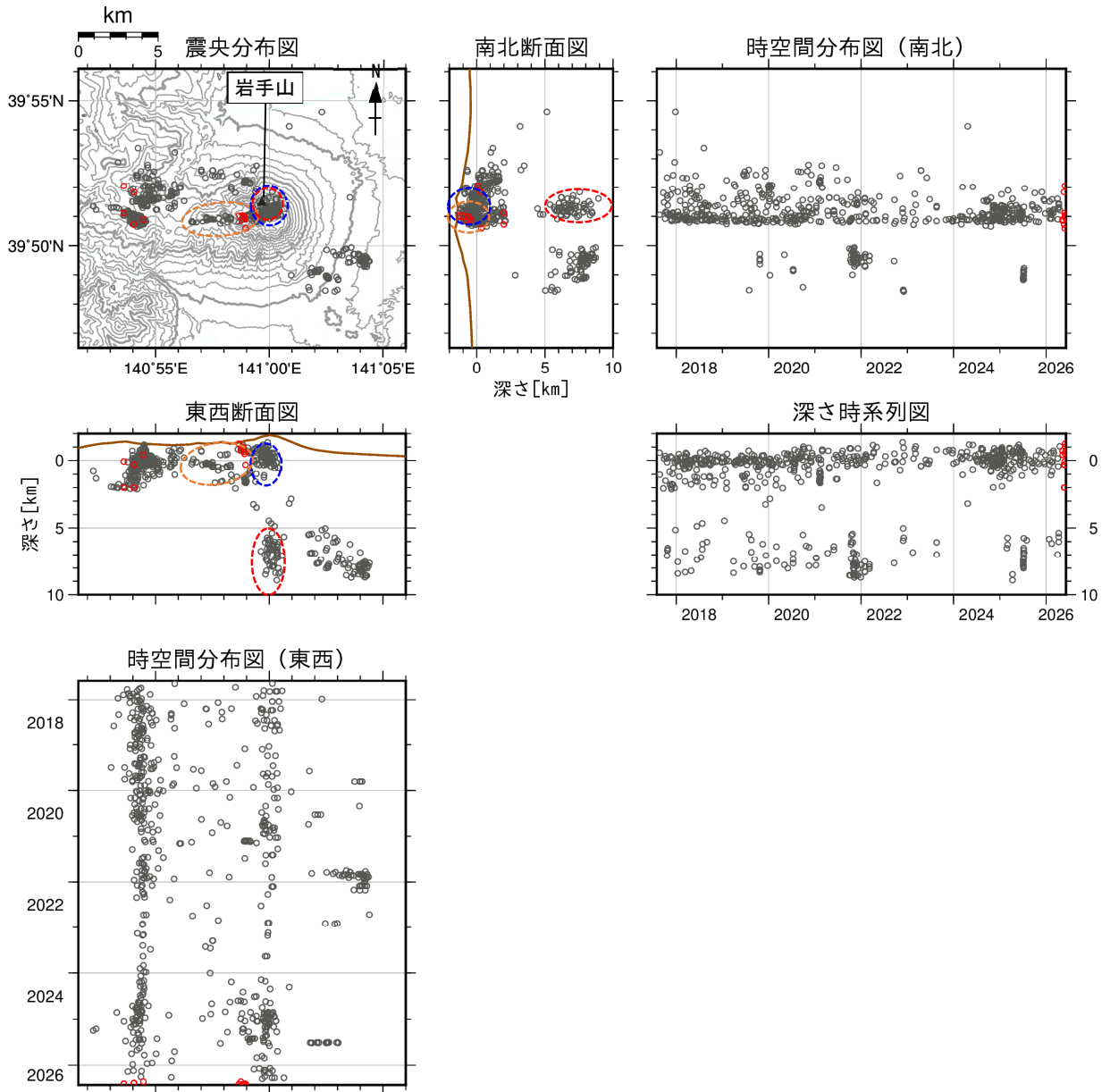


図2 岩手山 日別地震回数（2018年1月～2026年6月2日（期間外））

②西岩手山の想定火口（[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level/PDF/level\\_207.pdf](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level/PDF/level_207.pdf) 参照）及びその周辺（図3の橙破線で示す領域）で発生した火山性地震の日別回数を示します。  
 ③西岩手山の想定火口の一部である黒倉山付近で発生した微小な火山性地震のみの日別回数であり、③以外で示す火山性地震の日別回数には含まれません。  
 赤線は地震回数の積算（右目盛）を示します。

山頂付近を震源とする火山性地震は、今期間、少ない状態で経過しました（①）。  
 西岩手山の想定火口及びその周辺を震源とする火山性地震は28日以降、増加しています（②）。  
 黒倉山付近を震源とする微小な火山性地震は、2025年8月中旬以降、少ない状態で経過していましたが、5月27日以降、増加しています（③）。  
 黒倉山付近の低周波地震は、今期間、観測されませんでした（④）。  
 山頂やや深部の低周波地震は、2024年12月中旬頃から発生頻度がやや高い状態で継続しています（⑤）。



○ : 2026年5月1日～6月2日（期間外）    ○ : 2017年8月1日～2026年4月30日

**図3 岩手山 地震活動（2017年8月～2026年6月2日（期間外））**

・青破線は山頂付近、橙破線は西岩手山の想定火口及びその周辺で発生する火山性地震のおおよその領域を示します。赤破線の領域は山頂やや深部で発生する低周波地震の震源域を示します。

2026年5月1日から6月2日（期間外）までに震源が求まった火山性地震の震源は11回でした。そのうち、西岩手山の想定火口の一部である黒倉山付近に震源が決定された火山性地震は6回でした。山頂付近に震源が決定された地震はありませんでした。



図4 岩手山 黒倉山監視カメラからの状況（5月23日）

・黒倉山監視カメラ（大地獄谷の西約500m）の映像です。

大地獄谷では、21日に大地獄谷で100m程度の高さの噴気を観測しました。それ以外の期間は、概ね50m以下で経過しました。

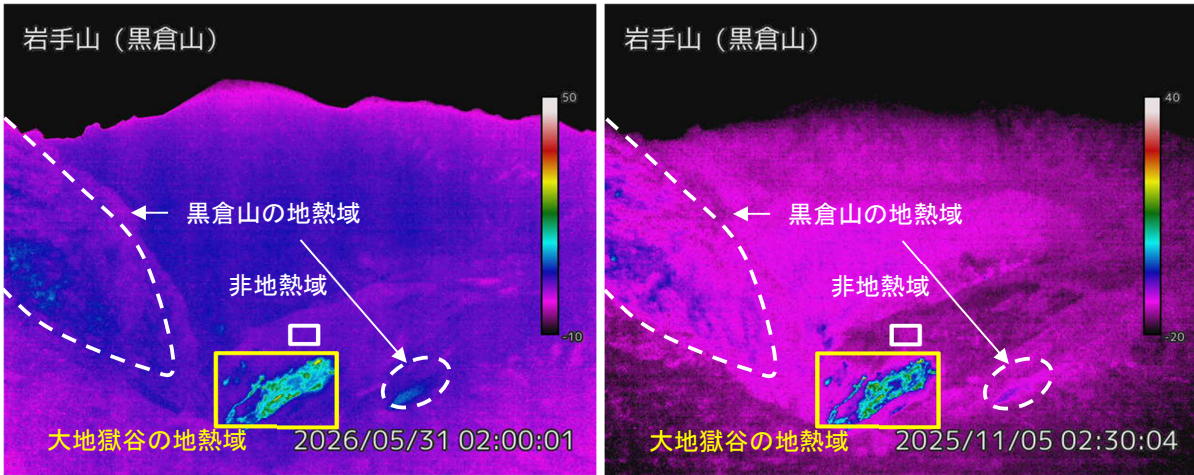


図5-1 岩手山 黒倉山監視カメラからの地表面温度分布

(2026年5月31日及び2025年11月5日)

- ・黒倉山監視カメラ（大地獄谷の西約500m）で観測された赤外熱画像を示します。
- ・黄色四角と白四角の領域は、それぞれ図5-2の解析における大地獄谷の地熱域と非地熱域の領域を示します。

2025年11月の観測結果と比較した場合、大地獄谷では2026年3月に地熱域のわずかな拡大が確認されましたが、今期間、地熱域のさらなる拡大傾向は認められませんでした。

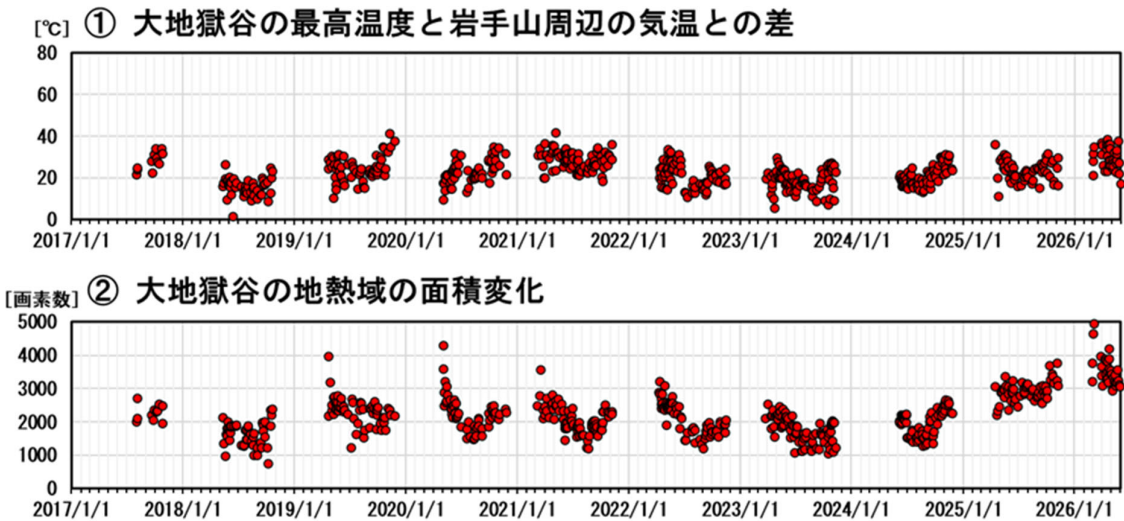


図5-2 岩手山 黒倉山監視カメラによる大地獄谷の地熱域の経過（2017年1月～2026年5月）

- ・①は大地獄谷の地熱域の最高温度と岩手山周辺（アメダス岩手松尾観測点）の気温との差を示します。
  - ・②は大地獄谷の地熱域内で、非地熱域の平均温度よりも5℃以上高い領域の画素数を示します。
- ▲：解析開始を示します。

2023年及び2024年と比較して、2025年4月以降、非地熱域より温度が高い領域が増加しています(②)。なお、大地獄谷最高温度と岩手山周辺の気温の差は例年並みで経過しています(①)。

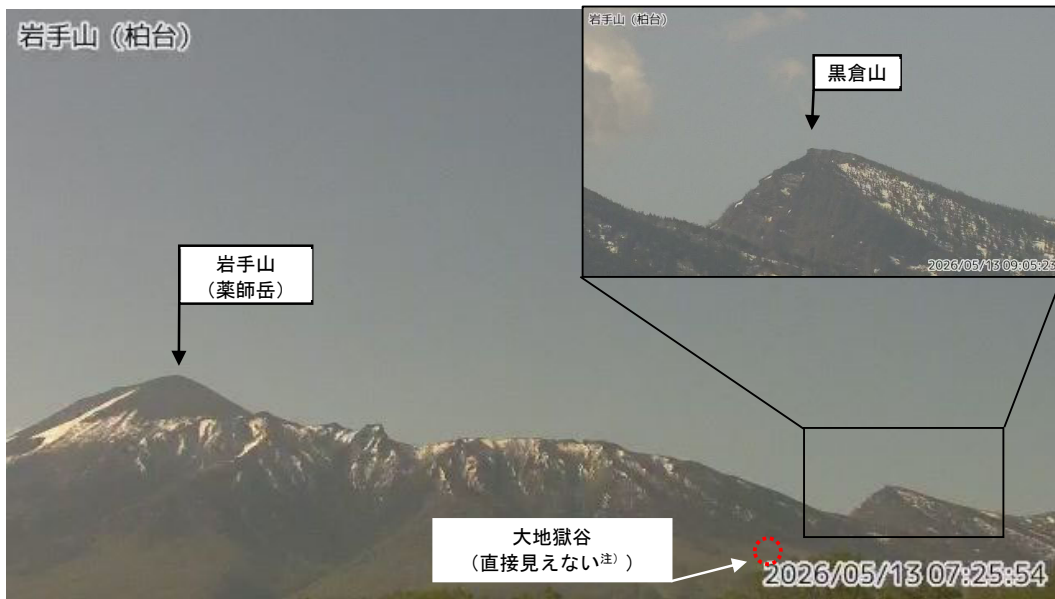
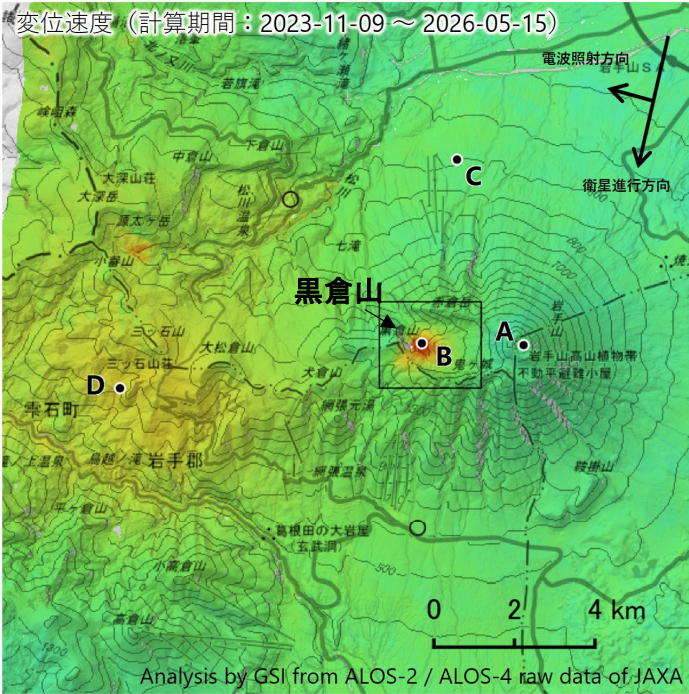


図6 岩手山 山頂部から黒倉山周辺の状況

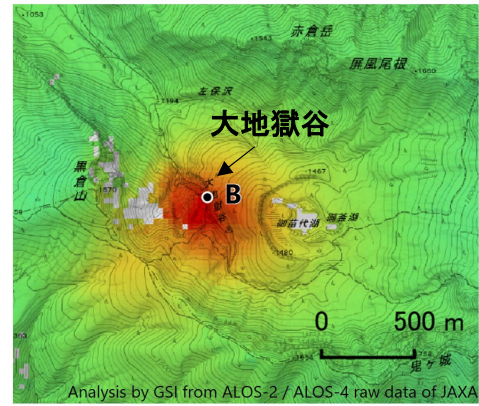
- ・上図：柏台監視カメラ（黒倉山山頂の北約7km）の映像（5月13日）です。
  - ・下図：長山篠川原監視カメラ（黒倉山山頂の南約9km）の映像（5月13日）です。
- 注）大地獄谷からの噴気は、高さ200m以上のときに観測されます。  
赤破線が大地獄谷の位置を示します。

黒倉山山頂、岩手山山頂及び大地獄谷の噴気は認められませんでした。

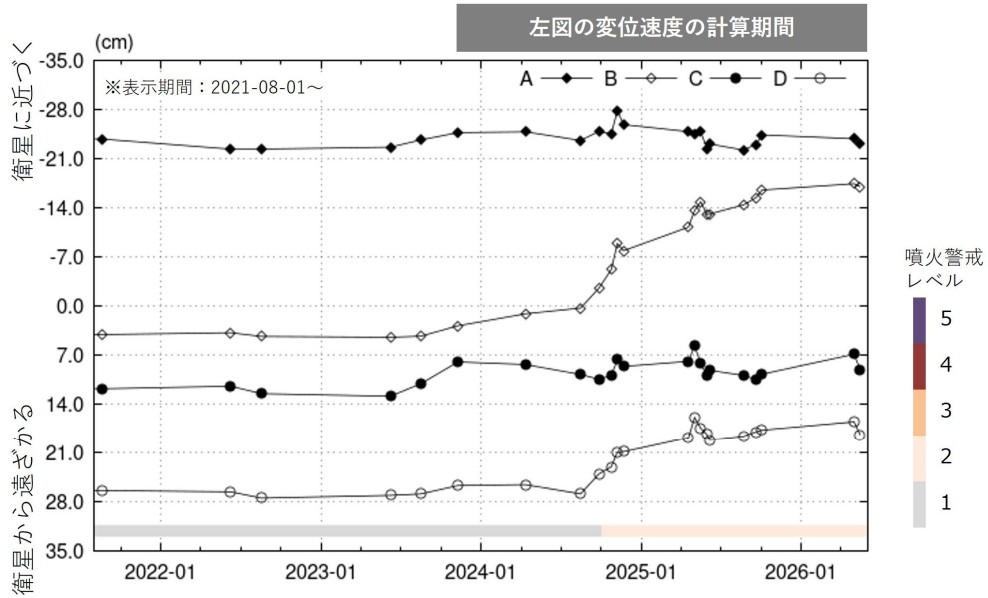
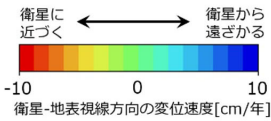
2023年11月以降の変位速度



【地点B周辺の拡大図】



※参照点は電子基準点「岩手松尾」付近  
○ 国土地理院以外のGNSS観測点  
干渉SAR時系列解析手法：SBAS法



地点A・B・C・Dにおける衛星-地表視線方向の変位の時系列

本解析で使用したデータは、国土地理院と JAXA との協定及び火山噴火予知連絡会衛星解析グループの活動を通して得られたものです。対流圏遅延補正には、気象庁数値予報格子点データを使用しています。

図7 岩手山 国土地理院の干渉 SAR 時系列解析結果（南行右観測）  
（2021年8月1日～2026年5月15日）

・国土地理院ホームページ「だいち2号」及び「だいち4号」観測データによる解析結果【速報】（2026年5月20日更新）（<https://www.gsi.go.jp/uchusokuchi/20240821lwatesan.html>）に掲載されている図を引用しています。また、図に地名等一部加筆をしています。

JAXA の衛星「だいち2号」及び「だいち4号」の観測データを用いた国土地理院による干渉 SAR 時系列解析結果（南行右観測）によると、大地獄谷（地点B）及び岩手山西部（地点D）において、2024年以降、衛星に近づく変動が見られていましたが、2025年10月以降、ノイズレベルを超える変動は見られません。

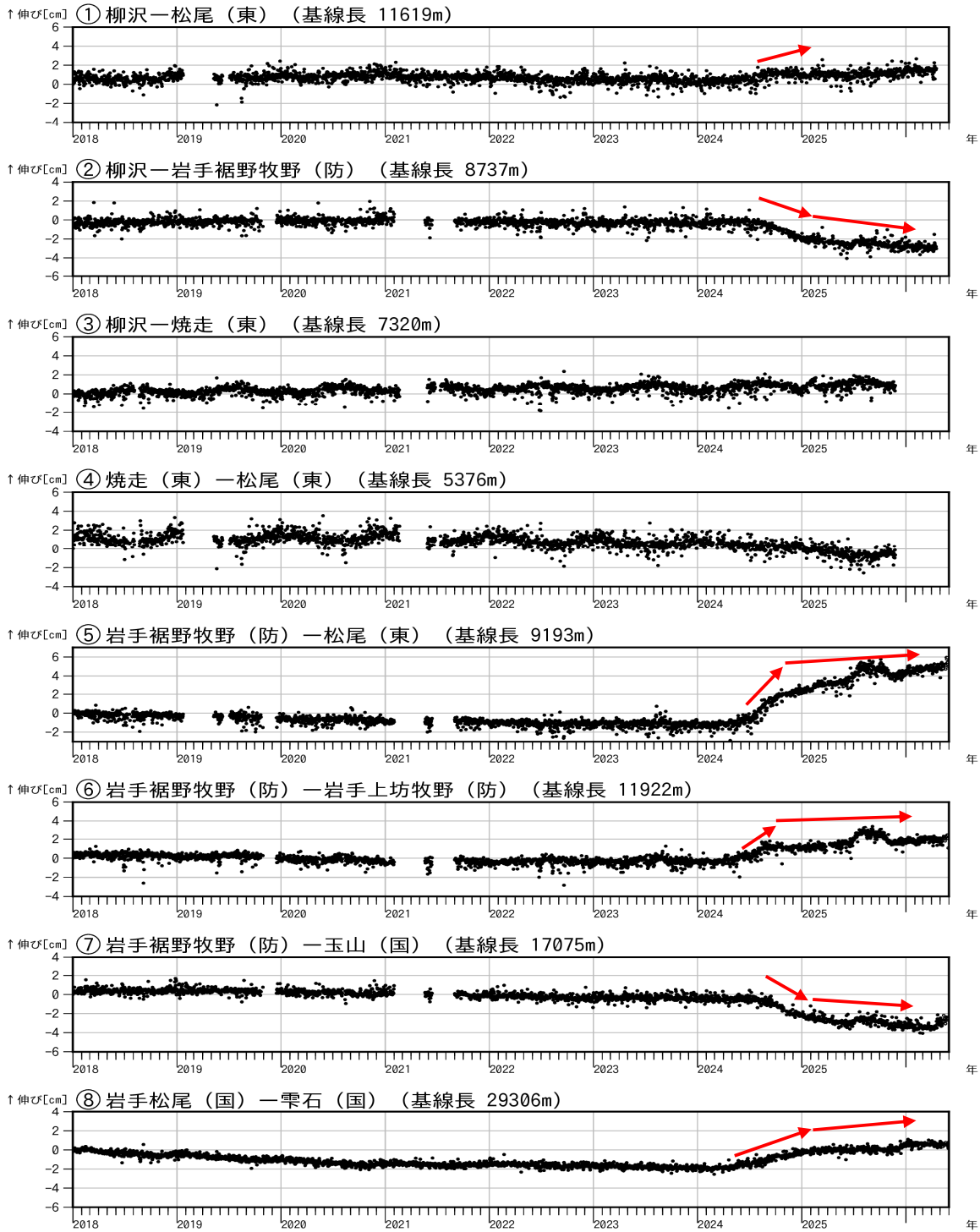


図8 岩手山 GNSS 基線長変化図（2018年1月～2026年5月）

- ・①～⑧は図12のGNSS基線①～⑧に対応しています。 ・空白部分は欠測を示します。
- ・(国)は国土地理院、(東)は東北大学、(防)は防災科学技術研究所の観測点を示します。
- ・基線②、⑤、⑥及び⑦では、6月下旬から11月下旬まで岩手裾野牧野(防)観測点に起因する変化がみられます。
- ・2025年12月8日に発生した青森県東方沖の地震及び2026年4月20日の三陸沖の地震に伴うステップ状の変化が一部基線で認められます。

2024年4月以来見られている東岩手山のやや深部の開口割れ目や山体西側のやや深部の膨張を示す基線長の変化は、基線⑤及び⑥で2024年後半から、基線②、⑦及び⑧で2025年以降、鈍化が認められていましたが（赤矢印）、2026年以降、更なる鈍化、または停滞がみられます。

一部の基線（⑤、⑧）では、2025年12月頃から東岩手山のやや深部の開口割れ目の膨張を示すと考えられるわずかな伸びの変化がみられていましたが、2026年1月頃から停滞しています。

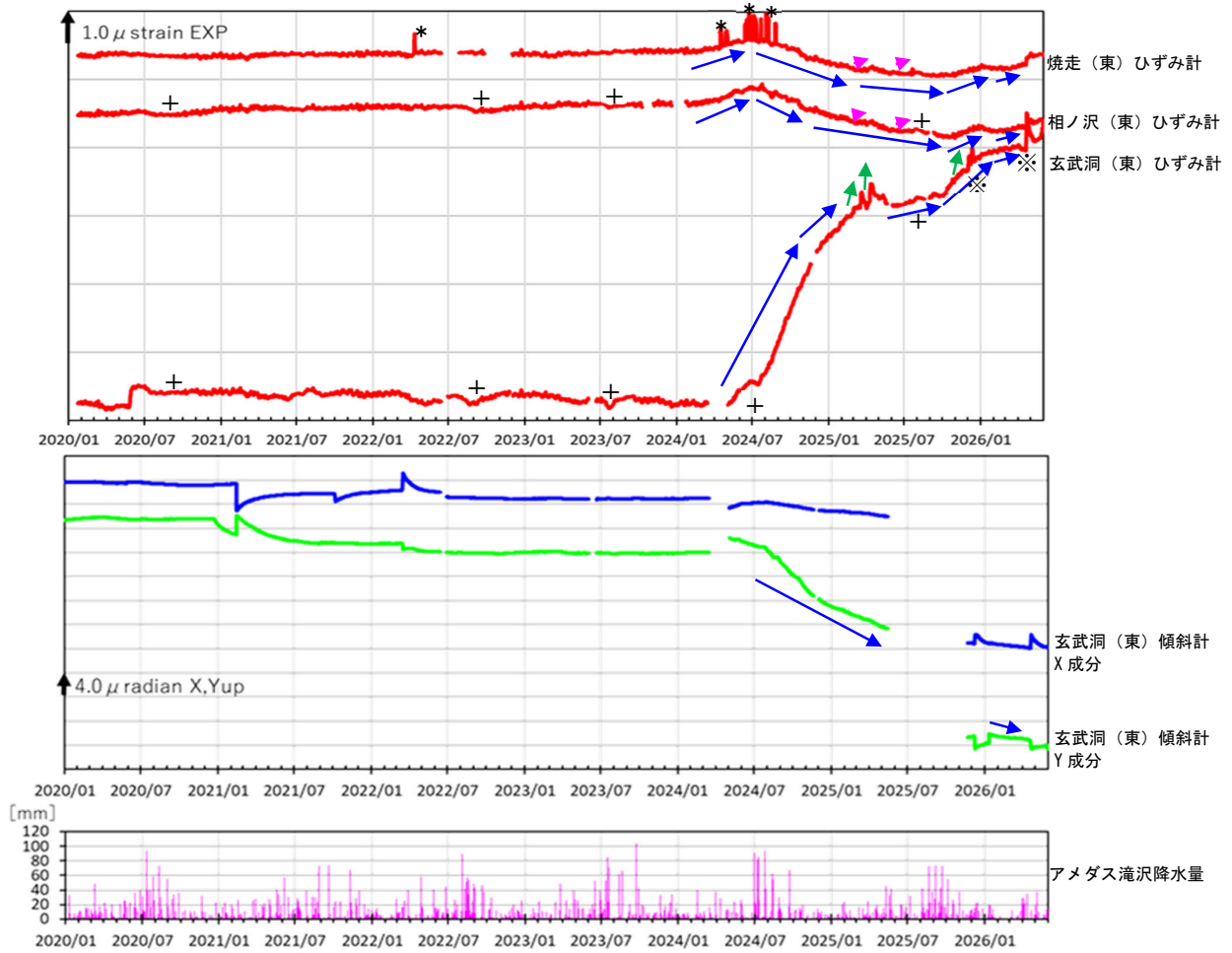


図9 岩手山 ひずみ計・傾斜計（日値・トレンド補正済み）による地殻変動の状況  
（2020年1月～2026年5月）

- ・空白部分は欠測を示します。
- ・（東）は東北大学の観測点を示します。
- ・玄武洞（東）傾斜計のX成分はN43° E方向、Y成分はN133° E方向を正の向きとしています。
- ・焼走（東）及び相ノ沢（東）のひずみ計では、2025年3月中旬から4月上旬と7月中旬から7月下旬にかけて、短期的なひずみ変化がみられました（桃矢印）。
- ・玄武洞（東）のひずみ計では、2025年3月中旬、4月上旬及び12月上旬に膨張の変化率の一時的な増加がみられました（緑矢印）。
- \*：収録機器の不具合による変動です。※：遠隔地の地震による変動です。×：火山活動に起因しない変動です。
- ＋：降水による影響の可能性がある変動です。

岩手山周辺のひずみ計や傾斜計では、2024年2月以降、東岩手山のやや深部の開口割れ目の膨張や山体西側のやや深部の膨張を示す変化（青矢印）が認められていました。これらの変化は2026年4月初め頃から概ね停滞していましたが、5月24日頃から山体膨張を示すと考えられる変化が再び観測されています（図10）。

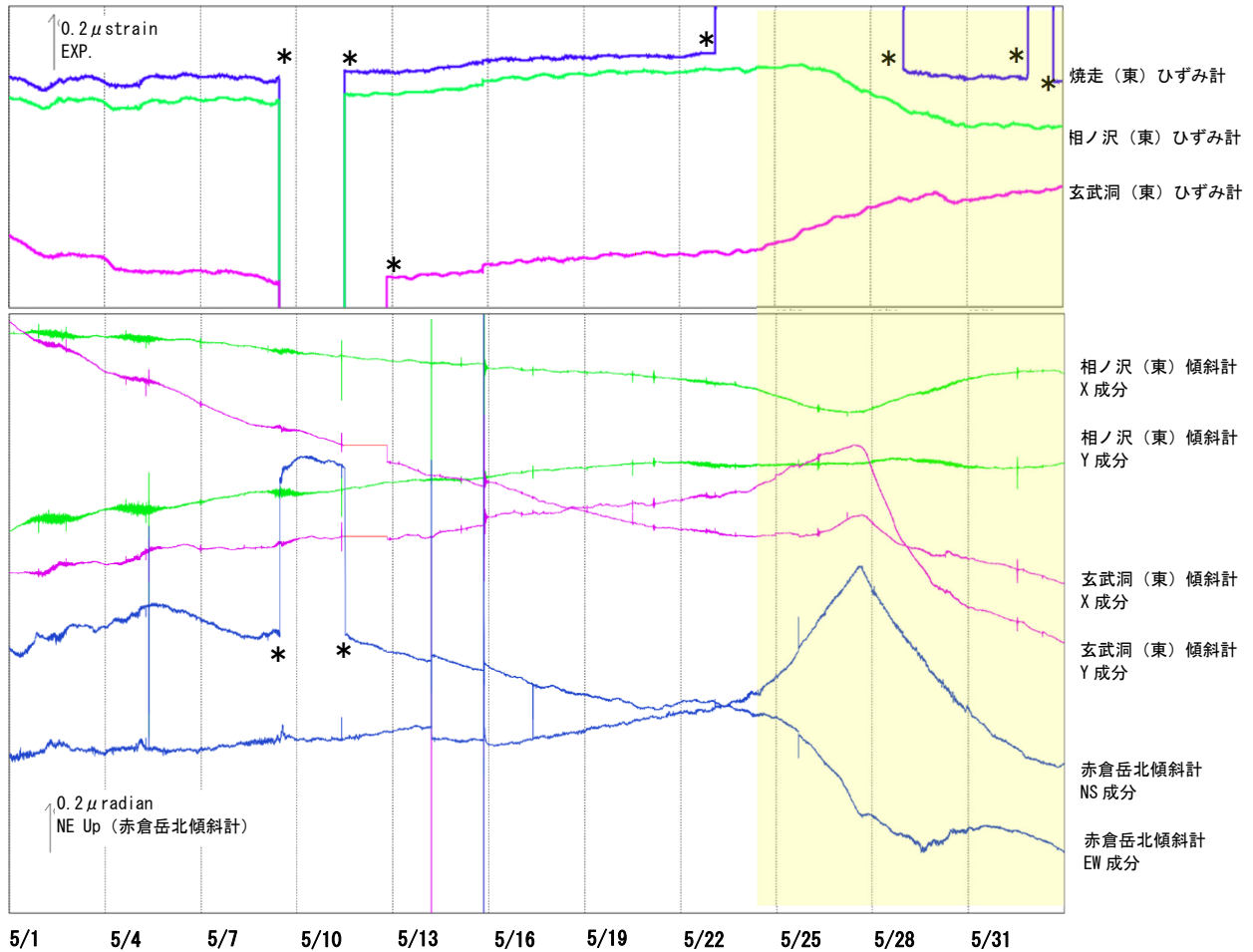


図 10 岩手山 ひずみ計・傾斜計（分値・トレンド補正済み）による地殻変動の状況  
（2026年5月1日～6月2日（期間外））

- ・空白部分は欠測を示します。
- ・（東）は東北大学の観測点を示します。
- ・相ノ沢（東）傾斜計のX成分はN142° E方向、Y成分はN232° E方向を正の向きとしています。また、玄武洞（東）傾斜計のX成分はN43° E方向、Y成分はN133° E方向を正の向きとしています。

\*：収録機器の不具合による変動です。

岩手山周辺のひずみ計や傾斜計では、5月24日頃から山体膨張を示すと考えられる変化が観測されています（黄色網掛け部分）。

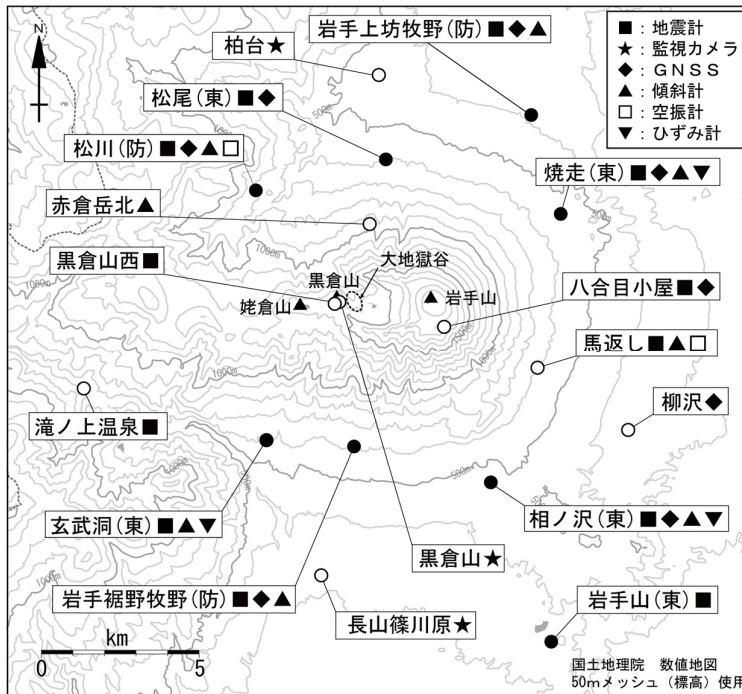


図 11 岩手山 観測点配置図

白丸 (○) は気象庁、黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(東) : 東北大学 (防) : 防災科学技術研究所

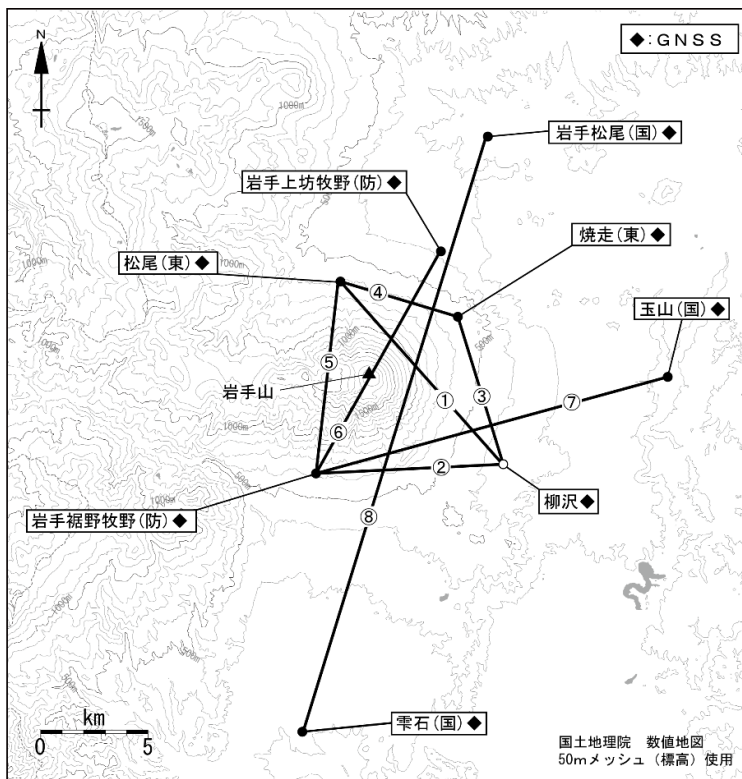


図 12 岩手山 GNSS 観測基線図

白丸 (○) は気象庁、黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国) : 国土地理院 (東) : 東北大学  
(防) : 防災科学技術研究所